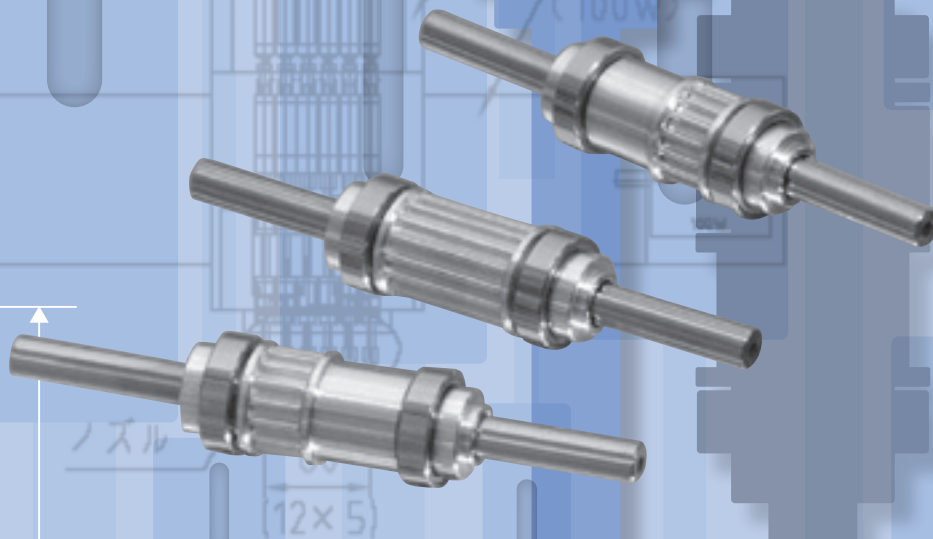
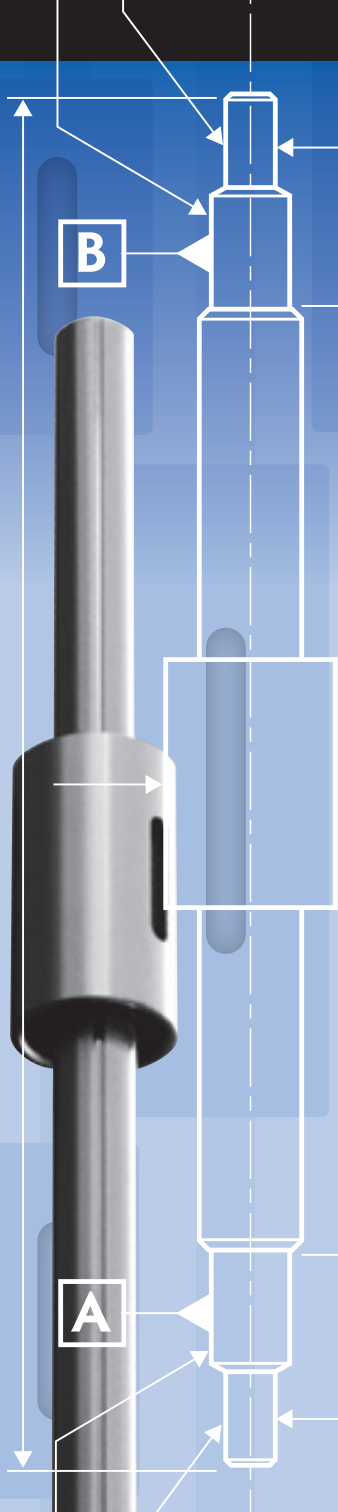


# HEPHAIST®

それは価値を創造する個性ある集団です。

## 第49期 報告書

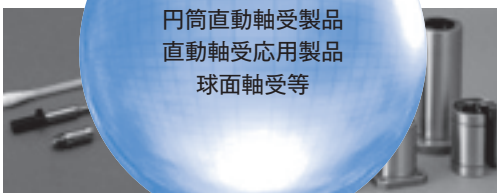
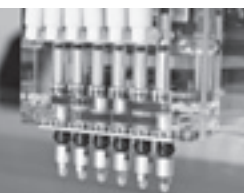
2010年4月1日~2011年3月31日



当社は、1962年(昭和37年)の創業以来、リニアモーションベアリングの専門メーカーとして、常に新しいテクノロジーを追求し、多様化するニーズに応えるべき技術力と創造力により高品質・高付加価値製品を提供してまいりました。これからも長年蓄積した固有技術を活かし、事業の柱となるリニアベアリングなどの直動機器事業、ポジショニングステージなどのユニット製品事業及び精密部品加工事業の3つの事業領域で企業価値の拡大を目指してまいります。

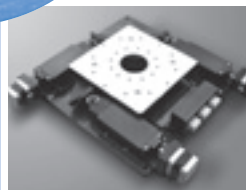
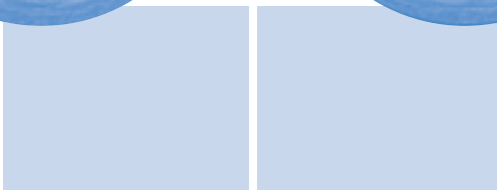
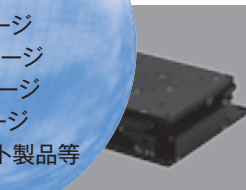
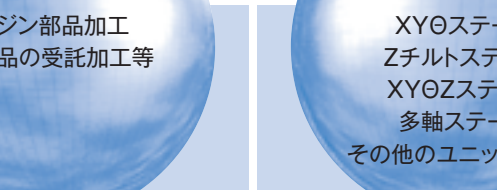
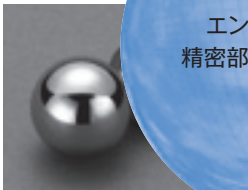
### 直動機器事業

円筒直動軸受製品  
直動軸受応用製品  
球面軸受等



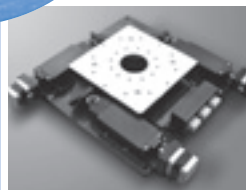
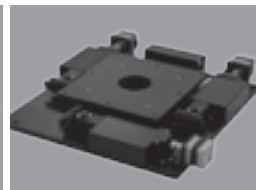
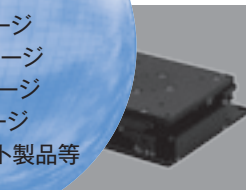
### 精密部品加工事業

エンジン部品加工  
精密部品の受託加工等



### ユニット製品事業

XYθステージ  
Zチルトステージ  
XYZステージ  
多軸ステージ  
その他のユニット製品等



## 目次

事業概要	1	株式の状況	6
株主・投資家の皆様へ	2	会社の概要	6
財務情報	3	ヒーハイト精工50年の歩み	7
トピックス	5	株主メモ	7



## 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長 尾崎浩太

# Message

皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第49期報告書をお届けするにあたり、平素のご支援を深く感謝し、御挨拶申し上げます。

このたびの東日本大震災で被災された皆様方には、心からお見舞い申し上げます。一日も早く復興の日を迎えられることをお祈り申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、新興国向け輸出の回復と政府の緊急経済対策効果などにより、一部で景気回復を維持したため、当社の主要市場である各種産業用機械業界や電子部品業界の業績は回復基調となり、当事業年度における当社の受注・売上状況は好転いたしました。しかし、雇用環境の悪化、デフレや円高傾向が長期化するなど、先行き不透明感が残る状況が続いております。

このような経済環境状況の下で、当社は、顧客ニーズの満足度向上のため、営業・技術・製造の三位一体体制の更なる強化による顧客対応力の向上及び生産性向上活動による品質向上、コスト低減、納期短縮に懸命に取り組んでおります。

これらの結果、当事業年度の業績は、売上高につきましては1,601,353千円(前期比51.5%増)となりました。また、損益面につきましては、売上高の回復と生産性向上活動の効果により、経常利益72,615千円(前期は経常損失81,588千円)となり、当期純利益は38,596千円(前期は当期純損失55,871千円)となりました。

主力製品であります直動機器につきましては、産業用機械業界の市況回復により受注が回復し、当事業年度の売上高は1,228,467千円(前期比96.7%増)となりました。

精密部品加工につきましては、レース用エンジン部品及び一般受託加工の受注微増により、売上高は188,230千円(同19.8%増)となりました。

ユニット製品につきましては、電子部品業界の市況回復が必ずしも受注には結びつかず、売上高は184,654千円(同32.9%減)となりました。

次期の見通しにつきましては、世界経済は新興国の成長が順調に推移すると思われませんが、国内経済は、東日本大震災に起因する問題が今後の経済活動に大きな影響を及ぼすものと思われまます。このような経済環境の下で、市場拡大が予想されるスマートフォンやタブレット端末に向けた産業用機械、電子部品業界への顧客ニーズに対応し収益の確保を図ります。

次期の売上高につきましては、1,739,000千円(前期比8.6%増)、営業利益116,654千円(同64.2%増)、経常利益110,566千円(同52.3%増)、当期純利益66,923千円(同73.4%増)となる見通しです。

当社の主要市場である産業用機械、電子部品業界及び自動車関連業界を含めて、国内経済は総じて回復傾向にあるものの、東日本大震災の影響等、先行きは未だ不透明の状況にあり、引き続き厳しい状況で推移してゆくものと思われまます。

当社は、このような厳しい事業環境の中で、受注確保を第一の課題と認識し、顧客ニーズの満足度向上のため、営業・技術・製造の三位一体体制の更なる強化による顧客対応力の向上、QCDの追求による製品力の向上、固定費、変動費の削減などを強力に推し進め、業績の早期回復に努めてまいります。

重点方針は以下のとおりであります。

- ① 生産性向上による生産能力増強とコストダウン
- ② QCDの徹底追及による顧客対応力の強化
- ③ 海外販売展開の構築・強化
- ④ 提案型営業による顧客ニーズに適合した新製品の開発

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を行うことを基本方針としております。

しかしながら、当事業年度の配当金につきましては、当期純利益を計上したものの、経済環境の先行き不透明感が残っているため、及び、今後の事業展開等を勘案し、誠に遺憾ながら、期末配当金を無配とさせていただきます。

また、平成24年3月期につきましては、内部留保資金の使途として、中国販売子会社の展開及び、将来における当社の事業環境の発展への投資を図ることが最優先と考えており、現時点では、配当金は未定としております。株主の皆様に対する利益還元ができるよう、全力で利益獲得に取り組みながら、次期の業績と財政状態を勘案し、配当予想が可能となりました段階で、速やかに公表いたします。

株主・投資家の皆様には、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2011年6月

## 貸借対照表

単位:千円

科目	49期 平成23年3月31日	48期 平成22年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産 ①	1,825,388	1,675,654
現金及び預金	684,283	679,236
受取手形及び売掛金	657,696	603,059
製品	23,975	19,009
仕掛品	248,719	206,999
原材料	168,881	121,973
繰延税金資産	16,101	30,560
その他	27,010	15,987
貸倒引当金	△1,279	△1,173
固定資産 ②	2,210,411	2,318,687
有形固定資産	2,069,886	2,156,370
建物及び構築物	859,304	916,812
機械装置及び車両運搬具	118,425	149,430
工具、器具及び備品	28,652	26,622
土地	1,063,504	1,063,504
無形固定資産	1,683	2,201
投資その他の資産	138,842	160,115
投資有価証券	3,334	5,499
繰延税金資産	111,772	130,863
その他	28,848	33,543
貸倒引当金	△5,112	△9,790
<b>資産合計</b>	<b>4,035,800</b>	<b>3,994,342</b>

科目	49期 平成23年3月31日	48期 平成22年3月31日
<b>負債の部</b>		
流動負債 ③	561,080	438,090
支払手形及び買掛金	333,693	190,799
1年以内返済予定長期借入金	142,886	200,952
未払法人税等	6,500	—
その他	78,001	46,339
固定負債 ④	577,194	695,959
長期借入金	279,172	407,911
退職給付引当金	43,709	38,569
役員退職慰労引当金	253,928	247,941
長期リース資産減損勘定	384	1,537
<b>負債合計</b>	<b>1,138,275</b>	<b>1,134,050</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,897,941	2,859,409
資本金	717,495	717,495
資本剰余金	664,455	664,455
利益剰余金	1,516,056	1,477,459
自己株式	△64	—
評価・換算差額等	△416	882
その他有価証券評価差額金	△416	882
<b>純資産合計</b>	<b>2,897,525</b>	<b>2,860,291</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,035,800</b>	<b>3,994,342</b>

## 貸借対照表のポイント

## ① 流動資産

受取手形及び売掛金は、第3四半期以降の売上が前期比で増加したことにより増加しております。たな卸資産は、第4四半期以降の受注が前期比で増加したことにより、主に仕掛品、原材料が増加しております。

## ② 固定資産

有形固定資産は、主に減価償却により減少しております。投資その他の資産は、繰延税金資産により減少しております。

## ③ 流動負債

支払手形及び買掛金は、第3四半期以降の売上増に伴い仕入等が増加したことにより増加しております。

## ④ 固定負債

長期借入金は、約定返済をすすめ減少しております。

## 損益計算書

単位:千円

科目	49期	48期
	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
売上高	1,601,353	1,057,057
売上原価	1,081,799	738,054
売上総利益	519,553	319,003
販売費及び一般管理費①	448,502	413,103
営業利益又は営業損失(△)	71,051	△94,100
営業外収益②	9,812	32,452
営業外費用③	8,247	19,940
経常利益又は経常損失(△)	72,615	△81,588
特別利益	4,759	2,160
特別損失	2,494	4,510
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	74,879	△83,938
法人税、住民税及び事業税	1,848	3,364
過年度法人税等	—	6,000
法人税等調整額	34,434	△37,431
当期純利益又は当期純損失(△)	38,596	△55,871

## キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	49期	48期
	(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)	(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー①	195,801	△66,784
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△3,729	△212,485
財務活動によるキャッシュ・フロー③	△187,026	△210,232
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,045	△489,501
現金及び現金同等物の期首残高	423,005	912,507
現金及び現金同等物の期末残高	428,050	423,005

### 損益計算書のポイント

- 販売費及び一般管理費は、人員増に伴い人件費が増加しております。
- 営業外収益は、前期に雇用調整助成金収入があったため当期は減少しております。
- 営業外費用は、貸倒引当金繰入額が当期減少したため、減少しております。

### キャッシュ・フロー計算書のポイント

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益の増加等により前期よりも資金が増加しております。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、当期は投資活動による支出が少なかったため前期よりも資金が増加しております。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済額が減少したことにより前期よりも資金が増加しております。

### 株主資本等変動計算書のポイント

純資産の増加は、利益剰余金の増加によるものです。

## 株主資本等変動計算書

単位:千円

科目	49期	48期
	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
<b>株主資本</b>		
資本金		
前期末残高	717,495	717,495
当期変動額合計	—	—
当期末残高	717,495	717,495
資本剰余金		
前期末残高	664,455	664,455
当期変動額合計	—	—
当期末残高	664,455	664,455
利益剰余金		
前期末残高	1,477,459	1,539,575
当期変動額合計	38,596	△62,116
当期末残高	1,516,056	1,477,459
自己株式		
前期末残高	—	—
当期変動額合計	△64	—
当期末残高	△64	—
株主資本合計		
前期末残高	2,859,409	2,921,525
当期変動額合計	38,532	△62,116
当期末残高	2,897,941	2,859,409
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	882	—
当期変動額合計	△1,298	882
当期末残高	△416	882
評価・換算差額等合計		
前期末残高	882	—
当期変動額合計	△1,298	882
当期末残高	△416	882
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	2,860,291	2,921,525
当期変動額合計	37,233	△61,233
当期末残高	2,897,525	2,860,291

### 第40回 インターネプコン・ジャパン 出展

展示会期間3日間の総来場者数は約47,000人と前年を大きく上回りました。弊社ブースにも多くの皆様にお立ち寄り頂きました。



#### 出展内容

1. 短納期対応が可能となった【薄型標準XYθステージ】
2. 6軸の動きを可能にする位置決めステージ用【XZモジュール】
3. 転がり抵抗を低減、標準ラインアップとなった【ミニチュア有限ボールスプライン】
4. ノズルピッチ12mmを可能にした、省スペース対応【回転ベアリング一体型ボールスプライン】
5. ミニチュアボールねじとミニチュアスプラインを一体化させた【ボールねじスプライン】
6. スキマゼロの転がり案内による【球面軸受】等

※上記単体展示の他に、各展示品を用いた動態展示も行いました。

### 新製品 「有限ストロークボールスプライン」シリーズ12種

小径直動ベアリング「有限ストロークボールスプライン」シリーズ12種を発売。シャフト外径は4ミリ、5ミリ、6ミリメートルの3種類。有限ストローク長は15ミリ、25ミリ、35ミリメートルと、高剛性タイプ15ミリメートルの4種類をラインアップしました。



### 中国販売子会社

今後もFA化により需要拡大が見込まれる中国市場において、グローバルかつスピーディな対応を図っていき、直動軸受製品の販売強化を目的として、平成23年6月営業開始で販売子会社を設立いたしました。

【商号】	赫菲(上海)軸承商貿有限公司
【英文名】	HEPHAIST SEIKO (SHANGHAI) Co., Ltd.
【代表者】	執行董事 尾崎文彦 (当社専務取締役 兼 執行役員営業部長)
【所在地】	中華人民共和国上海市長寧区雲山関路83号 新虹橋中心大廈2623室
【主な事業内容】	直動軸受製品及びその関連製品の販売、 輸出入等の関連サービスの提供
【決算期】	12月31日
【従業員数】	1名(事業開始時)
【資本金】	20,000,000円(当社100%出資)
【営業開始】	平成23年6月1日



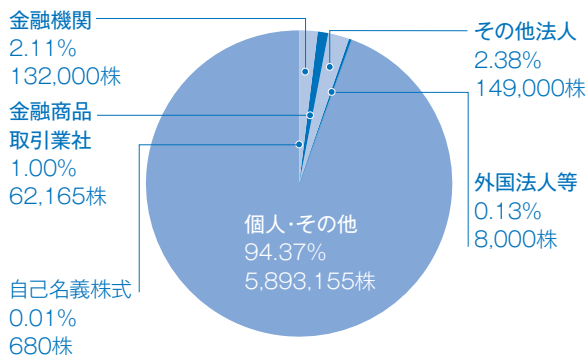
### 株式の状況 (2011年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数……………18,720,000株
- 発行済株式の総数……………6,245,000株

### 大株主 (2011年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
尾崎 久壽彌	1,429	22.88
尾崎 浩太	810	12.98
尾崎 文彦	708	11.34
小泉 秀樹	160	2.56
夏 恒	106	1.69
日本生命保険相互会社	100	1.60
松山 史朗	94	1.50
大塚 勝洋	80	1.28
ヒーハイト精工社員持株会	73	1.16
土田 浩司	64	1.02

### 所有者別株式数 (2011年3月31日現在)



### 会社の概要 (2011年3月31日現在)

- 社名 ヒーハイト精工株式会社
- 本社 〒350-1151  
埼玉県川越市今福580番地1
- 埼玉工場 〒350-1151  
埼玉県川越市今福580番地1  
[敷地面積16,677m<sup>2</sup> 建物面積7,589m<sup>2</sup>]  
TEL 049-273-7000 (代表)  
FAX 049-273-7001
- 秋田工場 〒010-1653  
秋田県秋田市豊岩小山字下田454番地  
(豊岩工業団地内)  
[敷地面積36,292m<sup>2</sup> 建物面積4,525m<sup>2</sup>]  
TEL 018-828-0111  
FAX 018-828-2231
- 海外 赫菲(上海)軸承商貿有限公司 〒200336  
中華人民共和国上海市長寧区婁山関路83号  
新虹橋中心大廈2623室  
TEL +86-21-3133-2623
- 設立 昭和37年7月19日
- 資本金 717,495,000円
- 従業員数 67人

### 役員 (2011年6月28日現在)

代表取締役社長	尾崎 浩太
専務取締役	尾崎 文彦
取締役	柴田 幸子
常勤監査役	村田 伊織
監査役	北川 尚
監査役	小川 好文

### 執行役員 (2011年6月28日現在)

	菜花 有三
	佐々木 宏行

## ヒーハイス精工50年の歩み

- 1962年 7月 精密部品の製造事業を目的として、資本金500万円で神奈川県川崎市にヒーハイス精工株式会社を設立する。  
※精密研削加工の受託及びエンジンパーツの製造を開始する。
- 1965年 5月 独創的発想による、他に類のない含油焼結合金ソリッド型保持器の開発に成功し、画期的リニアボールベアリングの製造に着手する。
- 1968年 11月 日本精工株式会社とリニアボールベアリングのOEM供給契約を締結し、NSKブランドで販売を開始する。  
(1984年1月当社特許終了につき契約解除)
- 1980年 6月 工作機械及び産業機械等の直動案内機構用としてアンギュラウェイの製造販売を開始する。
- 1987年 4月 ポジショニングステージ及びパラレルメカニズムの研究開発を開始し、数々の特許を取得する。
- 1990年 11月 秋田市豊岩工業団地に秋田工場を新設し、THK株式会社にリニアベアリングをOEM供給する。
- 2004年 6月 日本証券業協会へ店頭登録する。
- 2005年 8月 本社工場(埼玉県川越市芳野台)を売却し、埼玉県川越市今福に本社・埼玉工場を新設し、移転する。
- 2007年 3月 ISO9001:2000を認証取得する。
- 2010年 1月 円筒直動軸受に2製品ラインナップ「回転ベアリング一体型ボールスプラインユニット」「ミニチュアボールねじスプライン(BSSP)」
- 2010年 7月 エコアクション21(環境経営システム)を認証取得する。  
小径直動ベアリング「有限ストロークボールスプライン」シリーズ12種発表。

## 株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 期末配当金受領株主確定日 3月31日  
(中間配当を行う場合、毎年9月30日)
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号
- 同連絡先
- 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
- 上場証券取引所 大阪証券取引所(JASDAQスタンダード市場)
- 公告の方法 電子公告の方法により行う。
- 公告掲載URL <http://www.hephaist.co.jp>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きに関しましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

※本誌には、ヒーハイス精工の将来に関連する記述があります。この前提及び将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれていることにご留意ください。

## ヒーハイス精工株式会社



証券コード6433